

## キリスト教関連科目を通しての 学生のキリスト教観の変化について

### About a Change in the Students' View on Christianity through the Christian related Courses

富岡和久

#### 要旨

多様な価値観の混在する現在社会において、多様性を受容しつつ、自己の価値観をしっかりと表現できる人材を育成することは大学においても重要である。本論文ではキリスト教関連科目を通して、学生のキリスト教的価値観の変化と日常生活との結びつきがどのように変化したかを、講義前後のアンケート調査結果を基に考察した。その結果、キリスト教について表面的捉え方からより内容を理解した捉え方への変化が推察された。

**キーワード：**キリスト教関連科目 (the Christian related Courses) / キリスト教観 (View on Christianity) / 価値観 (values) / ホスピタリティ (hospitality) / 知識の統合化 (Integration of knowledge)

#### 1. はじめに

多様な価値観が展開する現在、「価値観の教育」の重要性は増している。そのような中、今回の学習指導要領の改定で道徳の特別教科化が示された。初等中等教育機関（以下、学校）はこの指導要領の方針に沿いつつ、各学校の教育理念に基づく価値教育を展開する。次いで数年後には新指導要領の元で教育を受けた生徒が4年制大学及び短期大学（以下、大学）に入学してくる。その際に各大学がデュプロマポリシーを反映させた価値教育をどのように行うかが課題となる。

キリスト教を建学の精神とする北陸学院（本学院）においても、小学校、中学校及び高等学校において直接的・間接的キリスト教教育をどのように展開していくかが重要となってくる。さらに総合学園である本学院では大学においてもどのようにキリスト教的価値観を育成していくかが問われる。

多くのキリスト教系大学では、キリスト教教育の一環として「キリスト教概論」「キリスト教教学」などの科目を開設している。その多くはキリスト教の理論および歴史を中心とした内容で構成されている。

しかし、キリスト教的価値観を単なる知識の修得として終らせるのではなく、個々の学生の価値観の構築と他者の価値観の受容の基本として応用できるようにするためには、キリスト教と日常生活を結びつける科目の開設も重要となってくる。

#### 2. 目的

北陸学院大学及び北陸学院大学短期大学部（以下、本学）は他大学に比べキリスト教関連科目及び行事が多い一方、学生の宗教活動は活発とは言いがたい。また、クリスチャン学生も例年全学で数名程度を推移している。このことから授業としてのキリスト教関連科目が知識のレベルで留まり、実生活との連携が取れていないことが予測できる。

そこでキリスト教の知識の修得に加え、実生活にその内容を反映する（あるいは結びつける）事を目的とし、コミュニティ文化学科では生活と関連付けた科目として、2017年度の新カリキュラム

TOMIOKA, Kazuhisa

北陸学院大学短期大学部 コミュニティ文化学科  
主要担当科目  
「スタートアップセミナー」、「キリスト教と人間」、「キリスト教とホスピタリティ」

から「キリスト教と生活」、「キリスト教とホスピタリティ」の2科目を2年生の必修科目として新設した。本論文ではこれらの2科目の受講前後でキリスト教観に変化が見られたかどうかをアンケートの結果から、学生のキリスト教に関するイメージをキーワードで抽出することにより、キリスト教の理解が深まるかどうかを検証する。

このことから多様な価値観の混在する現代において、大学においてキリスト教関連科目を修得することにより、自己を失うことなく社会で共存する力を身につけることが可能となる教育のあり方について考える。

### 3. 背景

#### (1) 学習指導要領改定に伴う新たな道徳の目的について

今回の学習指導要領の改正では、道徳教育と道徳科の目標が「よりよく生きるための道徳性を養う」とされ、「特別の教科 道徳」が設定された。これは「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことを目指している。

基本となった中央教育審議会答申<sup>iii</sup>でも多様な価値観や文化的背景を持った人々が、互いを認め合いながら生活していくために、「社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観をもち、人間としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を模索し続けるために必要な資質・能力を備えること」が求められているとしている。(“・”部分は原文のまま)

#### (2) キリスト教教育の位置づけと大学におけるキリスト教教育のあり方

新たな道徳科の評価の方向性として、「他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか(自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等)」や「多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自

身との関わりの中で深めているか」が示された。<sup>iii</sup>

教科の面からは聖書科と道徳のあり方について一般社団法人キリスト教学校育同盟の「道徳の教科化」に関するプロジェクト委員会答申において、「道徳の教科化」にいたる歴史的流れとその背景、教科の取り組み、学校教育全体の取り組み、課題と指針、をまとめると共に、問題点や課題を提示しつつ、具体的に取り組む際の事例を掲げ、キリスト教系学校が取り組むべき指針が示された。<sup>iv</sup>

「多面的・多角的見方」を育成するために、「キリスト教的価値観」を体系的に学ぶ事は、キリスト教を建学の精神とする大学の特徴を最大限に活かす上では重要なことである。それらの多くの大学では全学必修科目として、キリスト教の基礎、文化及び歴史等を学ぶ科目を開設している。しかし、キリスト教と実生活を結びつける事を目標とした科目の開設は多くない。

### 4. 北陸学院におけるキリスト教教育

#### (1) 北陸学院の建学の精神

1885年(明治18年)にメリー・K・ヘッセル先生によって創設された本学院は、キリスト教による人格形成を基本としている。旧約聖書の詩編111編10節「主を畏れることは知恵のはじめ」を建学の精神とする幼稚園から大学までの総合学園である。本学院の継続教育の基本として「北陸学院スタンダード」(図1)を制定している。

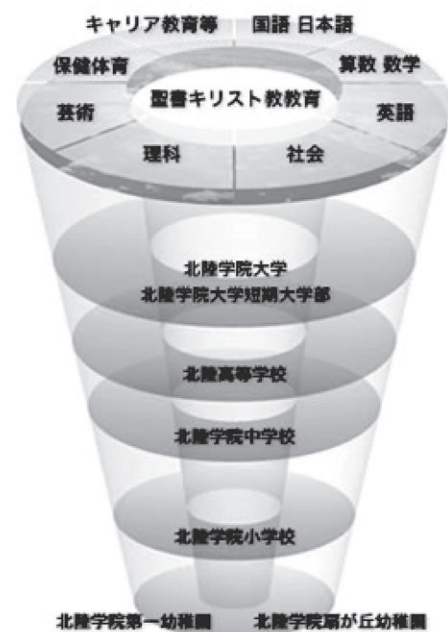


図1 北陸学院スタンダード

北陸学院スタンダードは「聖書キリスト教」、「英語」、「国語」・「日本語」、「算数・数学」、「キャリア教育」の5分野で構成されており、その中でも「聖書キリスト教」はコアをなす分野に位置づけられている。各分野で、3歳から22歳まで19年間にわたる連続した継続教育プログラムを作成。これにより、どの園児・児童・生徒・学生も、無理なく確実に学びを進めることができる。また学院の各学校の連携をいっそう深めるものとして位置づけられている。

## (2)北陸学院大学及び短期大学におけるキリスト教関連科目

本学においての「聖書キリスト教」に関連した科目として、「北陸学院科目」が1・2年次に必修科目として配置されている。

また、全国的にも珍しく礼拝が必修科目の一部に位置づけられており、月曜日から金曜日の昼休みに行われる20分間の礼拝に、2週間で5回（任意の日に）出席する事が義務づけられている。特別に開催される花の日礼拝、収穫感謝礼拝、特別伝道礼拝（年2回）は全員の出席が求められている。さらに1・2年次には1泊の宿泊セミナーが

行われている。各学年における礼拝とセミナーを合わせて科目「北陸学院セミナーⅠ・Ⅱ」の単位認定条件としている。

大学におけるキリスト教関連科目は表1のとおりである。

### (3)対象科目の構成及び到達目標などについて

調査対象者のコミュニティ文化学科2年生は、全員1年次に「キリスト教概論Ⅰ・Ⅱ」（前・後期科目、担当者：宗教主事）及び「北陸学院セミナーⅠ」（通年、2週で5回の礼拝出席と1泊2日の宿泊セミナー出席で単位認定）の単位を修得済みである。2年次は前期に「キリスト教と生活」を、後期に「キリスト教とホスピタリティ」が必修科目として開設されている。

前期科目の「キリスト教と生活」（表2）はキリスト教的視点から日常生活における生活環境の課題とあり方について学ぶ科目で、達成目標として「生活の意義について理解している。現代社会における生活課題に気づいている。家庭生活の経済の現状を理解している。環境問題と生活の関係について理解している。」を掲げている。

表1 大学及び短期大学部のキリスト教関連科目一覧

科目分野	科目名	担当者	学年学期配当	必修・選択別	単位	学科
北陸学院科目	北陸学院セミナーⅠ	宗教主事	1年・通年	必修	各1	全学
	北陸学院セミナーⅡ		2年・通年			
	キリスト教概論Ⅰ		1年・前期			
	キリスト教概論Ⅱ		1年・後期			
	キリスト教人間論Ⅰ	地域教会牧師	2年・前期			4年制大学
	キリスト教人間論Ⅱ		2年・後期			
基幹科目	キリスト教と教育	専任	4年・前期	選択必修	2	子ども教育（4年制）
学科専門科目	宗教と社会	専任	2/3/4年・前期	選択	2	社会（4年制）
学科基礎科目	人間の探究Ⅰ	地域教会牧師	2年・前期	必修	各1	食物栄養（短期大学）
	人間の探究Ⅱ		2年・後期			
	キリスト教と生活	専任	2年・前期	必修	各1	コミュニティ文化（短期大学）
	キリスト教とホスピタリティ		2年・後期			



表2 「キリスト教と生活」 授業計画

授 業 計 画	
実施回	授業内容・目標
1	生活とは何かについて科学的に考える。 目標：生活の定義、生活の意義について理解できている。
2	家族と家庭と福祉について考える。 目標：家族と家庭の意義と関係について福祉の視点から理解できている。
3	私たちににとっての家族とは何かについて考える。 目標：授業の1・2回を踏まえて、家族と家庭の在り方についてグループで話し合い、考えを共有する。
4	家庭における現代的課題について家庭や家族を取りまく現状から考える。 目標：現代社会における家庭の抱えている課題について理解している。
5	自分流のライフスタイルについて考える。 目標：ライフステージと生活課題について理解し、自分のライフスタイルのあり方について述べることができる。
6	家庭経営と個人の生活について考える。 目標：家庭経営のあり方と現在における個人の生活への影響を理解できている。
7	自然保護とライフスタイルについて考える。 目標：自然はなげ守るべきものなのかについて、自然の利用の目的や自然保護がもたらす利益から自分の意見を述べられる。
8	イエスの時代の生活と私たちの生活について考える。 目標：私たちの生活に根ざすキリスト教的生活観について、比較し述べるができる。
9	『12の贈り物』から人生に必要なものについて考える。 目標：私たちに与えられた豊かな人生を送るために必要なものを述べられる。
10	『人生の四季 発達と熟成』から人生のあり様について考える。 目標：ライフステージの各時期を充実したものにするために必要な事について述べられる。
11	ビジネスとしてのブライダルについて考える。 目標：ブライダル産業における“結婚式”の位置づけについて理解している。
12	ビジネスとしてのブライダルについて考える。(教室外授業) 目標：チャペルウエディングの施設を訪問を通して、ブライダル産業の実際について理解している。
13	教会における結婚式について考える。 目標：キリスト教的観点から“結婚式”の意味を理解している。
14	教会における結婚式について考える。(模擬体験授業) 目標：キリスト教的観点からの“結婚式”について、体験を通して理解を深めている。
15	講義の最終振り返り 目標：グループワークを通じて、キリスト教的価値観から私たちの生活にのあり方について共有できている。

全15回のうち前半の第1回から第7回は“家庭・家族”、“ライフスタイル”、“環境”などのキーワードをもとに、生活科学の視点を中心に生活のあり方について学ぶ。後半の第8回から第14回のうち第8回から第10回はイエスの時代の生活観・価値観に由来する現代社会の生活規範への影響や人生観などについて学ぶ。第11回から第14回は通過儀礼としての“結婚式”をキーワードに、会社組織としてのチャペルウエディング現場の視察と本学チャペルを利用した教会における模擬結婚式を通して、ブライダル産業の視点と教会生活の視点から学ぶ。

後期科目の「キリスト教とホスピタリティ」(表

3)は商業ベースにおいて顧客満足度を上げるキーワードとして用いられるホスピタリティ(「おもてなし」と、欧米で根付いているキリスト教精神をベースとしたホスピタリティについての違いを学ぶと共に、日常生活或いは福祉にまで視点の範囲を広げ、現代社会における、ホスピタリティのあり方について学ぶ科目で、「ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。」を到達目標としている。

全15回のうち第1回は前期の「キリスト教と生活」の振り返りを兼ねて、商業的・非商業的視点

表3 「キリスト教とホスピタリティ」授業計画

授業計画	
実施回	授業内容・目標
1	<b>ホスピタリティとは</b> ホスピタリティ、サービス、おもてなしの違いを理解している。
2	<b>ヒトはなぜ人を助けるのか。</b> 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。
3	<b>社会福祉とホスピタリティ</b> ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。
4	<b>宗教とホスピタリティ</b> 種々の宗教におけるホスピタリティについてその違いを理解している。
5	<b>海外のキリスト教社会福祉から考える。(救貧院に見るイギリスの福祉)</b> 海外のキリスト教社会福祉の原点について理解している。
6	<b>海外のキリスト教社会福祉から考える。(本当に他者のことを考えているのはだれ?)</b> それぞれの立場からの支援について違いを理解している。
7	<b>日本のキリスト教社会福祉から考える。</b> 日本のキリスト教社会福祉の原点について理解している。
8	<b>外国人に対する社会的支援から考える。</b> 観光の視点からのホスピタリティについて理解している。
9	<b>茶道に見るおもてなしの原点。</b> 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。
10	<b>ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。</b> ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。
11	<b>ヘレン・ケラーに学ぶ。</b> ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。
12	<b>マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。</b> マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。
13	<b>マザー・テレサに学ぶ。</b> マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。
14	<b>賀川豊彦に学ぶ。</b> 賀川豊彦の活動から他者への思いやりについて理解している。
15	<b>映画にみるホスピタリティ</b> 映画を通して、海外でのホスピタリティの事例を理解している。

から“ホスピタリティとサービス”について学ぶ。第2回から第4回は“他者援助”、“ホスピタリティ”について「サンディエゴ巡礼」と「お遍路」の比較などを通して、社会福祉的観点とキリスト教的観点から学ぶ。第5・6回は社会福祉の原点とも言えるキリスト教社会福祉の流れについて『オリバーツイスト』を教材に学ぶ。第7回は日本の社会福祉活動の歴史を仏教やキリスト教などの視点から学ぶ。第8回は“おもてなし”、“ホスピタリティ”について、「インバウンド観光」の視点から学ぶ。第9回は日本の茶道の“おもてなし”について学ぶ。第8・9回の内容を通して、キリスト教的な“他者援助”との違いについてよ

りふかく学ぶ。第10回から第14回は具体的な人物を通して、“他者援助”や“自己犠牲”といった“他者への思いやり”について学ぶ。

なお、本講義では授業外の学習として、各自が指定の邦画2本と洋画2本を授業外の時間に事前に視聴し、最終回（第15回）でその内容からホスピタリティのあり方についてグループワークで意見を共有化する。

授業は2科目とも担当者（筆者）による講義を受けると共に、ワークシートを用いて個人の意見を書き出し、それを元を実施するグループワークを通じて、受講者間の考えを共有する流れで進行する。

## 5. 調査方法

本学短期大学部コミュニティ文化学科の2017年度2年前期科目「キリスト教と生活」の初回の冒頭で「キリスト教から連想すること」、「プラスに思うこと」、「マイナスに思うこと」について自由記述方式で回答してもらった。さらに同年度後期科目「キリスト教とホスピタリティ」最終回の授業終了間際に上記の質問項目に加え「生活の中で新たに発見したキリスト教と関係のあること」を回答してもらった。

この2回のアンケートでそれぞれの項目で抽出されたキーワードの種類や量的変化から学生のキリスト教観にどのような変化(影響)を及ぼしたかを推察した。

アンケートの実施に当たっては、アンケート結果個について個人を特定できない形で授業改善あるいはそれに付随する研究等で利用する事の了解を得た。

## 6. 結果

### (1) 設問内容と回答者の基礎データ

今回は2年前期開講の「キリスト教と生活」の授業開始時と2年後期開講の「キリスト教とホスピタリティ」終了時にアンケートを実施した。

設問内容は前期「キリスト教と生活」では、①「キリスト教から連想すること」、②「良いイメージ」、③「悪いイメージ」の3問で、自由回答と

した。後期「キリスト教とホスピタリティ」では上記の①～③に加えて④「生活の中で新たに発見したキリスト教と関係のあること」を問うた。

受講者61名全員に配布。回収率、有効回答率とともに100%であった。内、高等学校時代に授業や礼拝でキリスト教に関する知識を得ていた北陸学院高校出身者は9名(構成比15%)であった。

### (2) 前期授業開始時の学生の持つイメージ

前期授業開始時(以下、2年生開始時)における「キリスト教から連想すること」について尋ねた。(図2)

本設問の回答としてあげられたキーワード(短文を含む)の総数は236であった。同一(近似語も含む)キーワードの回答数について最も多かったのが「イエス」(27ポイント)であった。以下「クリスマス」(25ポイント)、「礼拝」(23ポイント)、「十字架」(18ポイント)、「教会」・「聖書」(15ポイント)、「讃美歌」(12ポイント)、「イースター」(10ポイント)、「祈り」・「結婚式」・「チャペル」(7ポイント)、「神」(6ポイント)、「宗教」(5ポイント)、「マリア」(3ポイント)と続いた。上位10位以内に「クリスマス」や「イースター」と言った行事が含まれていた。また、礼拝に関連したキーワードが多く見られた。一方で一般では想像されがちな「チャペルウエディング」に関するキーワードは1回答のみと少なかった。

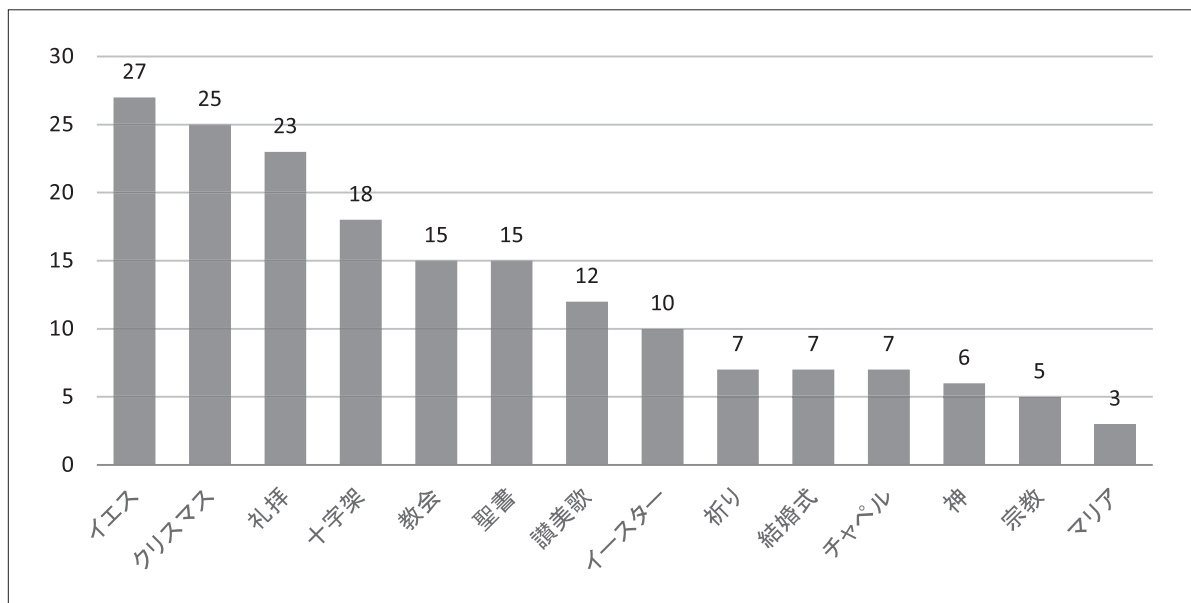


図2 キリスト教から連想すること(年度始め)

(2) 前期授業開始時のキリスト教のイメージについて

キリスト教のイメージについて「よいイメージ」と「悪いイメージ」について尋ねた。

「よいイメージ」としてあげられたキーワードの総数は79であった。最も多かったのが“クリスマス”(9ポイント)であった。以下、“心が癒やされる等”(7ポイント)、“礼拝が善い影響を与える”(6ポイント)、“聖書の内容が良い影響を与える”・“讃美歌が善い影響を与える”(3ポイント)と続いた。(図3)

キリスト教のイメージとして“クリスマス”が一般に浸透していることが、ここでも分かった。また、礼拝に関連したことが「精神的支え」になっていることがうかがわれた。

「悪いイメージ」として上げられたキーワードの数は69であった。もっと多いのが“礼拝が煩わしい”(14ポイント)だった。以下、“怖い”(10ポイント)、“洗脳・勧誘”(4ポイント)と続いた。単位の一部として礼拝出席が課せられているからか、礼拝に悪いイメージを持った学生が多かった。また、カルト的宗教集団を連想するようなイメージを感じさせる回答が多かった。

礼拝の位置づけについては常に意見が分かれることが多いが、単位の一部として義務づけする利点と欠点の両方が見られたことは興味深い。

(3) 2年後期授業終了時に学生の持つイメージについて

2年後期科目の授業終了時(以下、2年生終了時)に得た「キリスト教から連想されること」を前期開始時の回答と比較した。(図4)

総回答キーワード数は2年開始時では236であったのに対し、2年終了時では187と20%減となった。

2年生開始時の上位10キーワードの増減を比較すると、2年生終了時も“イエス”(27ポイント)は2年生開始時と同ポイントで一番回答数が多かった。“聖書”、“賛美歌”の回答数に大きな変化は見られなかった。“クリスマス”(11ポイント減)、“十字架”(7ポイント減)、“教会”(9ポイント減)、“イースター”(10ポイント減)、“祈り”(4ポイント減)、“結婚式”(5ポイント減)、“チャペル”(6ポイント減)と、7キーワードで大きく減少が見られた。

一方で、2年開始時には見られなかった“隣人愛”(5ポイント)、“無償の愛”(4ポイント)、“愛”(5ポイント)と「愛」に関する新たなキーワードが合計で15ポイントと多数挙げられた。さらに“他者への配慮”・“ホスピタリティ”(各5ポイント)も新たなキーワードとして挙げられた。

一般に見られるイメージが減り、他者への思いやりに関連したキーワードが増加した。これは両科目の目的が達せされた結果と考えられる。

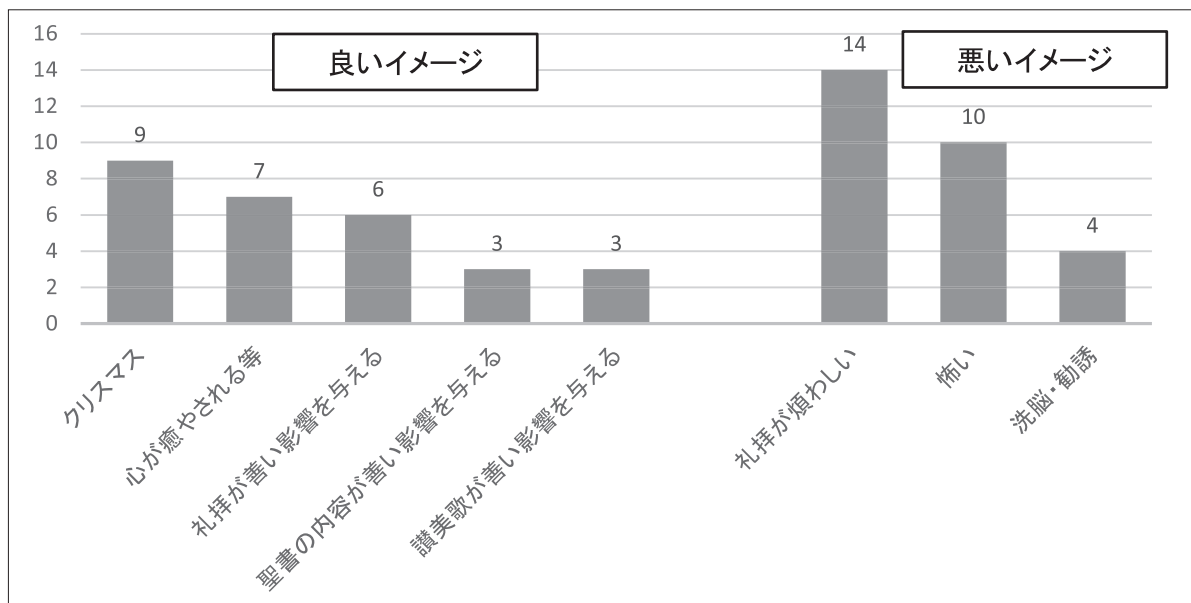


図3 キリスト教のイメージ (年度始め)

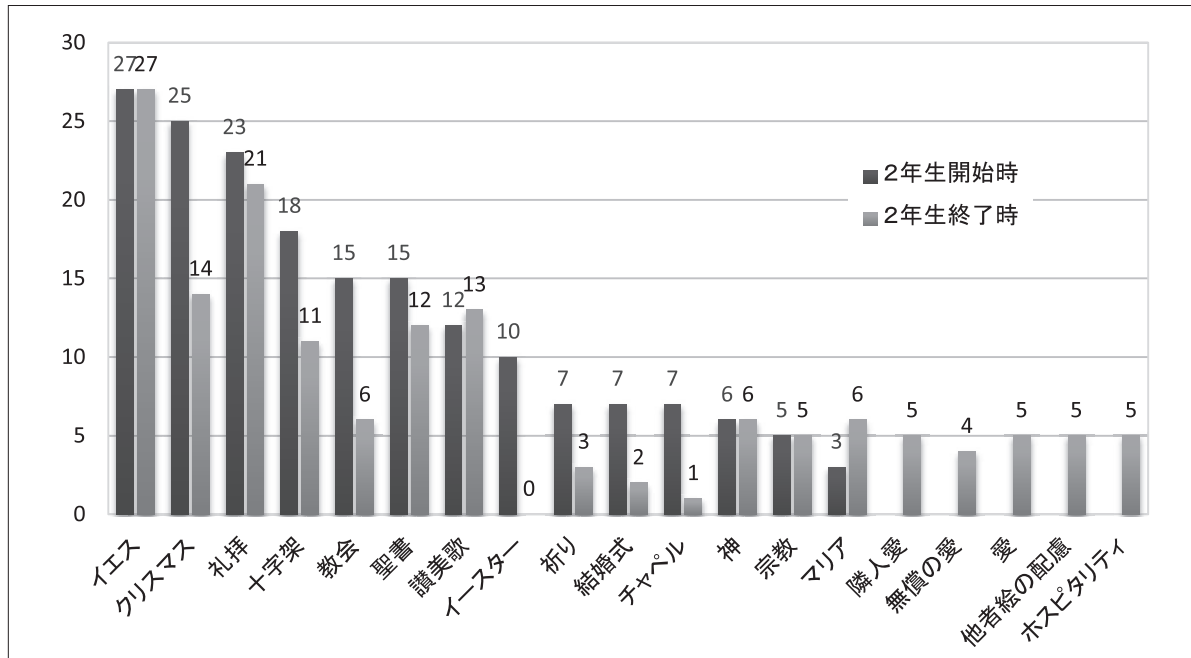


図4 キリスト教に関するイメージの変化

(4) 良いイメージの変化について

2年生終了時に得た「良いイメージ」を前期開始時の回答と比較した。(図5)

“心が癒される等”(5ポイント増)、“礼拝が良い影響を与える”(3ポイント)といった内容が増加するとともに、“愛”(4ポイント)や“他者援助”(4ポイント)が新たに出てきた。

(5) 悪いイメージの変化について

2年生終了時に得た「マイナスイメージ」を前期開始時の回答と比較した。(図6)

“礼拝が煩わしい”という回答にポイント数の

変化は見られなかった。“怖い”という恐怖心のイメージが9ポイント減と大幅に減少した。しかし、“洗脳・勧誘”(3ポイント増)が増すとともに、“束縛”(10ポイント)といったイメージが新たに加わった。

(6) 2科目受講後の生活とキリスト教との結びつきについて

2年生終了時に新たに質問した「生活の中で新たに発見したキリスト教関連事項」について図7に示した。

総回答キーワード数は62であった。“クリスマ

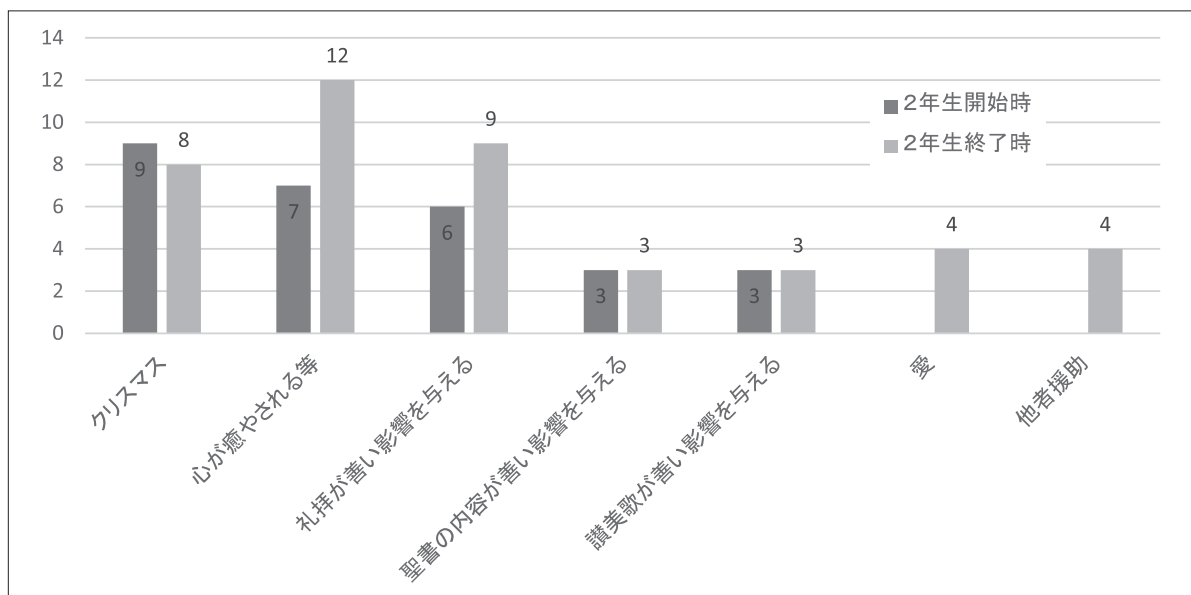


図5 プラスイメージの変化



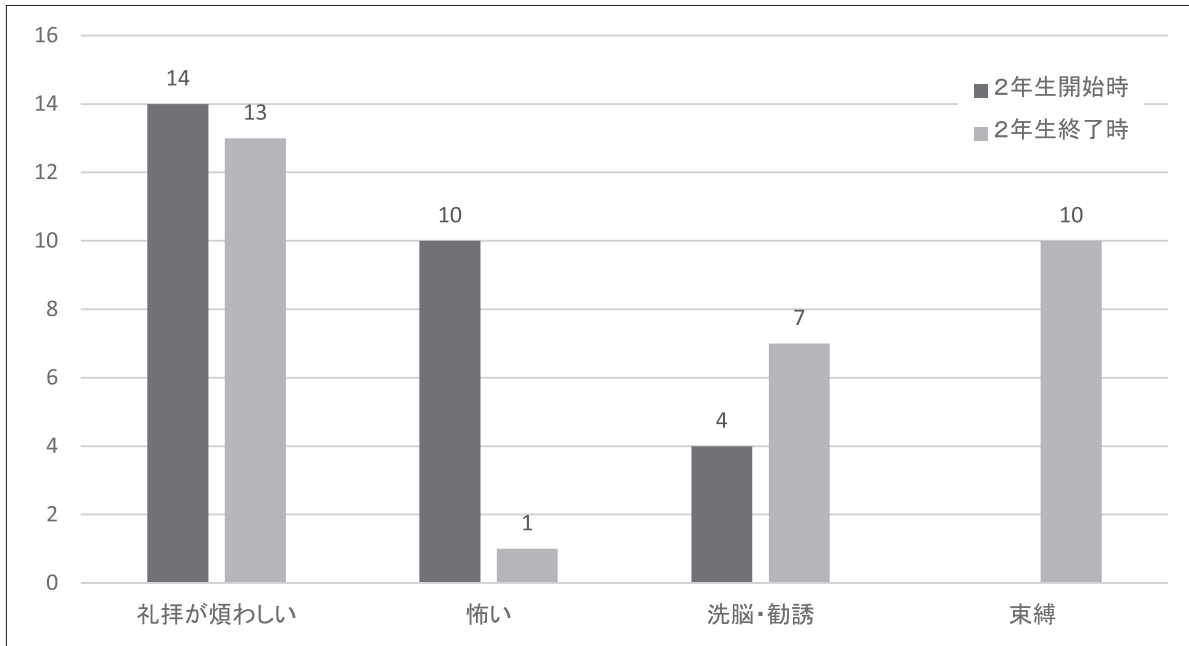


図6 マイナスイメージの変化

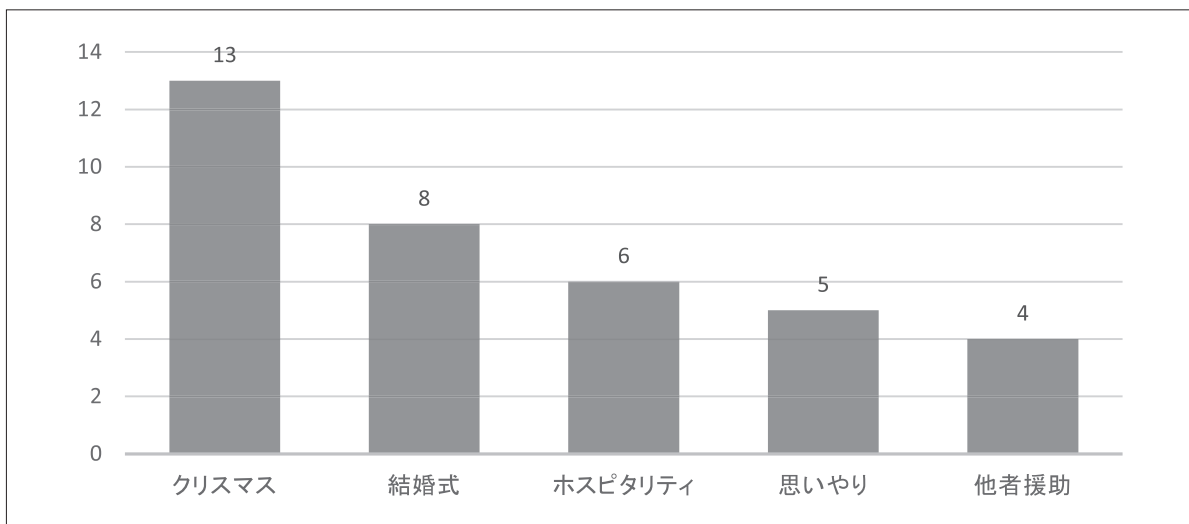


図7 生活の中で新たに発見したキリスト教と関連のある事

ス”（13ポイント）、“結婚式”（8ポイント）、といった2年開始時から見られたイメージが生活との結びつきで新たな発見として挙げられた。

また“ホスピタリティ”（6ポイント）、“思いやり”（5ポイント）、“他者援助”（4ポイント）などがあげられた。

“クリスマス”や“結婚式”といった行事とキリスト教とのつながりを以前に増して意識した結果と思われる。また、“ホスピタリティ”、“思いやり”、“他者援助”という社会福祉的視点との関連があるキーワードが挙げられたことは注目値する。

## 7. まとめと課題

文化庁の集計によると、日本の宗教団体の信者数は182,266,404人で、その内キリスト教系の団体の信者（以下、クリスチャン）数は1,914,196人とされている（2016年12月31日現在）。何らかの宗教団体の信者に対する日本のクリスチャンの比率は1.1%であり、仏教系の48.1%、神道系の46.5%に比べて低い比率である。’

一方、日本の大学設置数は2016年度の統計では118大学であった。’ また、2017年度末のプロテスタント系の大学が81大学’、カトリック系の大学33大学’であった。大学全体に占めるキリスト教

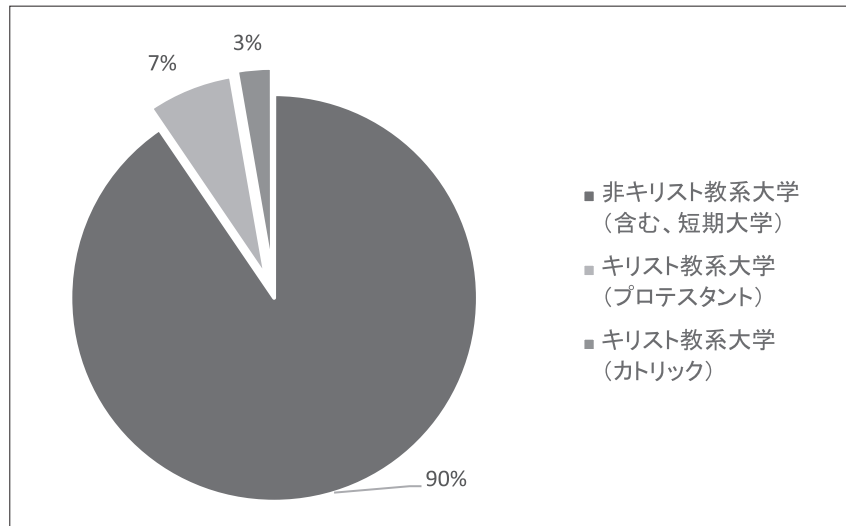


図8 系統別大学数の比較

系の大学は約10%である。(図8)

キリスト教系大学の比率とクリスチャン比率を単純に結びつける事は出来ないが、大学でのキリスト教教育がキリスト教理解に影響を与える可能性を内包していることは容易に推察される。

大学教育において、キリスト教理解を深めるカリキュラムを構築する場合、「キリスト教学」的視点も重要であるが、学生が修得した知識を生活の場面において実践的に応用できる力を身につけることが求められる。すなわち、知識統合型の教育が重要となってくる。

本学では1年次前後期で、牧師によるキリスト教に関する概論科目を配置すると共に、礼拝出席と宿泊セミナーを単位の一部としてキリスト教に触れる機会を設けている。また、各学科の特徴に合わせて実生活に結びつける科目を配置している(前出、表1)。

短期大学部のコミュニティ文化学科では、2017年度のカリキュラム改定に合わせて、1年次に得たキリスト教の知識を統合化する科目「キリスト教と生活」(2年前期・必修)と「キリスト教とホスピタリティ」(2年後期・必修)を開設した。

今回はキリスト教関連科目の履修前後で学生のキリスト教観がどのように変化するかを、アンケート調査を通して考察した。

「キリスト教に対するイメージ」については、前後期で変化が見られたが、授業開始時に本学高等学校出身者は「アドベント、ペンテコステ、バプテスマ、三位一体、花の日、収穫感謝、ヨセフ、

マリア」などのキリスト教に独自の行事や人物などのキーワードが見られた。一方、本学高等学校以外の高校出身者からは「ハロウィン」という、本来キリスト教の行事とは関係ないキーワードが見られた。しかし、授業終了時にはキリスト教と関係のないキーワードはどの学生からも出てこなかった。このことは学生が生活と関連付けたキリスト教関連科目2科目の履修の前後で、キリスト教と生活に関する表面的捉え方から内容を理解した捉え方に変化していることが推察された。また「プラスのイメージ」の増加が確認された。しかし「マイナスのイメージ」は恐怖など感覚的なものは減る一方で、新興宗教(偽キリスト教関係)と思われる単語の増加したことから、キリスト教と他の宗教の区別ができない状況が推察された。

加えて「新たな発見」で“クリスマス”や“結婚式”が出てきたのは、その意味や位置づけがキリスト教的視点からの捉え方に変化したことが影響していると考えられる。

以上から、2つの授業を通してキリスト教に関する知識が実生活とより結びつくようになったことが分かった。

今後の授業において、キリスト教と他宗教の違いの理解、さらには生活との結びつきについてより意識した関連付けができる授業構成にする事が必要と思われる。

さらにデュプロマポリシーやカリキュラムポリシーに沿った内容で学習成果が得られたかどうかについて学生の知識修得の質的变化を測定するた

めに、ルーブリック等の新たな尺度を設定する必要性が感じられた。

〈注：（引用及び参考文献）〉

- i 平成27年3月27日付け26文科初第1339号「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定，小学校学習指導要領の一部を改正する告示，中学校学習指導要領の一部を改正する告示及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示の公示並びに移行措置等について（通知）」
- ii 「道徳に係る教育課程の改善等について」（中央審議会答申 平成26年10月21日）
- iii 「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 平成26年7月22日）
- iv 「道徳の教科化」に関するプロジェクト委員会答申（一般社団法人キリスト教学校教育同盟「道徳の教科化」に関するプロジェクト委員会 2016年6月1日）
- v 「宗教年鑑平成29年版」（文化庁）
- vi 文部科学省「全国大学一覧」・「全国短期大学一覧」（平成16年度）
- vii キリスト教学校教育同盟（2018年4月現在）
- viii 日本カトリック大学連盟（2018年4月現在）

